



令和7年度 福井市明新小学校スクールプラン

学校教育目標
自ら学び、心身ともに健康で明るく、人間性豊かな児童の育成

研究主題
多様な関わり合いを通した深い学び

令和7年度福井市学校教育目標
郷土福井に誇りをもち、たくましく生きる子どもの育成

令和7年度福井市学校教育方針
学びをつなぐ・未来につなげる
～「つながる」を大切にした学校づくり～

教師の願い

- ・学習規律・生活規律を身につけ、基礎的な学力をもち、自己有用感を獲得できる子を育成したい。
- ・「気づき」「考え」「実行する」子を育成したい。

めざす児童の姿

- ・豊かな知性をもつ子 しっかり考え正しく判断できる。主体的・計画的に学習できる。
- ・認め合う子 礼儀正しく、思いやりがあり、互いを尊重し、豊かな心情がもてる。
- ・粘り強い子 失敗にくじけず、最後までがんばる。自分のことは自分でできる。
- ・丈夫な子 進んで心や体をきたえ、その努力が続けられる。

藤島中学校区めざす子どもの姿

地域とともに歩み、未来を切り拓く子どもたちの育成

	確かな学力	豊かな心の育成	健やかな心身の育成	地域を愛し、夢や希望を育てる
重点目標	◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ○基礎・基本の着実な定着による学力向上 ○「分かるから楽しい」授業づくり	◎命の大切さや思いやりの心を育む道徳教育や人権教育の推進 ○互いの良さを認め合い、思いやりをもって行動できる集団づくりの推進 ○進んで明るいあいさつのできる子の育成	◎安全や規則正しい生活を心がけた心身ともに健康な生活の推進 ○個々の子どもに寄り添い、状況に応じた適切な支援の実施 ○運動の楽しさを感じ、意欲的に体を動かす児童の育成	◎保護者、地域との連携による学校や明新地区を愛する子の育成 ○夢や希望を育むためのキャリア教育の推進 ○園小中の接続を重視し、藤島中学校区の各学校や各園との連携推進
具体的な取組	・「めあて」を明確にし、「まとめ」「振り返り」の時間を確保することにより、課題意識をもたせ、主体的に問題解決をさせる。 ・発達段階に応じた聴き方・話し方の定着、目的や課題に応じたペア・グループ学習により対話的な学習活動を展開する。 ・思考ツールや発表ボード、ワークシートなどを活用し、思考を深めさせる。 ・PCやタブレットなどを効果的に活用し、ICT教育の推進を図る。 ・休み時間や学習活動で新聞に触れる機会を増やし、慣れ親しむ。	・いじめや不登校のない、互いに認め、励まし合う温かい学級・学校づくりに取り組む（未然防止）とともに、問題行動にはチームで取り組む。（早期発見・早期対応） ・あいさつ運動やあいさつ週間など「いつでも、どこでも、誰にでも」進んで明るいあいさつができる子を育成する。 ・異学年集団活動を実施し、児童の社会性を育成する。 ・道徳科では、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることのできる学習活動を工夫する。	・病気やけが、事故や災害等から身を守る危機回避能力と自己決定能力を育成する。 ・「明新スマートルール」について定期的に家庭で考える機会をもち、徹底を図る。 ・支援が必要な児童に対して、関係機関との連携による支援や、TT指導や通級指導などによるきめ細かな支援を行う。（個別支援計画・指導計画等の活用） ・見守り隊やボランティアの方と協力して、交通安全意識を高める。 ・体育の授業や業間活動において、児童に目標をもたせ活動の意欲を高める。	・町探検や福祉施設訪問、和楽器体験、キャリア教育など、地域に学ぶ体験活動を推進する。 ・「明新ふれあい文化祭」などの地域の行事に積極的に参加するように促し、地域コーディネーターを中心に地域と連携し、児童が参画する体験の場を設ける。 ・藤島中学校区および近隣の各園への訪問、参観を通して、相互理解を深め、系統性のある学びを実現する。
数値目標	・授業がよく分かる。（児童 95%以上） ・友達との話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできる。（児童 90%以上） ・ICT 機器を効果的に活用する。（教職員 90%）	・学校が楽しい（児童 95%以上） ・家庭や学校だけでなく、地域の方にも元気にあいさつができる。（児童 95%以上） ・道徳科では、「考え、議論する」ことによって、自己を見つめさせたり、生き方について考えさせたりする指導に努めている。（教職員 90%）	・我が子は「明新スマートルール」や家庭で決めたルールを守ることができている。（保護者 80%以上） ・関係機関と連携をとったり、校内で情報を共有したりして、気になる児童に十分な指導を行っている。（教職員 100%）	・将来の夢や目指す目標をもっている。（児童 90%以上） ・地域と連携し、児童が参画する体験の場を設けている。（教職員 80%以上）
【業務改善のための取組】 ・教科担任制を積極的に取り入れ、教材研究・準備の時間を削減する。 ・学校行事・学年行事の内容を見直す。 ・教材をデータベース化して共有する。				